

医は仁術に草の根支援



反響の手紙を前に支援者と喜ぶジュナイドさん(左)

母国に病院開設計画の バングラ留学生

母国に戻って病院を開くバングラデシュ人留学生三人の熱意に市民や医療関係者らが感動、三人の元に機器や現金が続々と寄せられている。知人や本紙の紙面を通じて機器の提供を呼び掛けた九大医学部麻酔科のジュナイド・シャフィックさん(三三)は「これで、日本で学んだ技術が母国で生かせる」と喜んでいる。

一日までの支援の申し出は十件。福岡市内の病院や医療機器メーカーから腹部エコー、内視鏡カメラ、心

医療機器や現金

提供申し出続々

電図機械などの提供があったほか「日本では忘れられつつある、医は仁術」という言葉を思い出させてくれた」と現金を寄せた福岡県筑紫野市の主婦も。

東大のサルタール・ナイムさん(三三)と琉球大のファイサール・ムアザムさん(三三)の元にも、ベッドやコンピュータなどが寄せられており、ジュナイドさんは「三人の気持ちにこれだけの設備があれば十分やっついていける。三月末に帰国したら早速、準備を始めます」と張り切っている。

機器提供の連絡先は092(271)5858(石)

原内科循環器科病院・永松さん。寄金の振り込みは西

日本銀行博多支店・普通1

0795367(ジャパン

・バングラデシュ・フレン

ドシップ病院)代表ジュナ

イド・シャフィックへ。